

日本気象学会中部支部支部長賞の受賞理由について

2025年12月7日～8日に、名古屋大学宇宙地球環境研究所で開催された2025年度日本気象学会中部支部研究会において、本賞対象者からの9件の口頭発表を審査し、受賞対象者の選考を行いました。その結果、最も優れた研究発表として、名古屋地方気象台の加藤慎一朗さんに支部長賞を贈呈することを決定しました。

受賞理由：

加藤慎一朗さんは、寒気南下のパターンを客観的に分類し、寒気輸送に関する新たな指標を定義するとともに、JPCZの発現特性や降水量との定量的関係を明らかにすることを目的に研究を行いました。使用したデータは、気象庁第3次長期再解析データ（JRA-3Q）、札幌及びソウルの海面更正気圧、地上・地域気象観測所の前1時間降水量データです。

寒気南下の指標として、川口ら（2023）の定義による寒気質量フラックス（FLCA）を導入し、自己組織化マップ（SOM）を用いて空間パターンの分類を行いました。FLCAの領域平均から北回り及び西回りの指標（ I_N/I_W ）を定義し、3つのグループに分類しました。

その結果、北回り寒気南下のグループでは、JPCZが形成されず、顕著な収束域もみられないのに対し、西回り寒気南下のグループではJPCZが形成され、北陸沿岸での降水量が多くなることが示されました。

本研究の成果は、これまで定性的に用いられてきた「北回り」「西回り」という寒気南下の概念に対し、定量的な指標を導入した上で、JPCZ発現特性及び降水量との関係を明確にしたものであり、冬季季節現象の理解に大きく寄与すると評価されました。